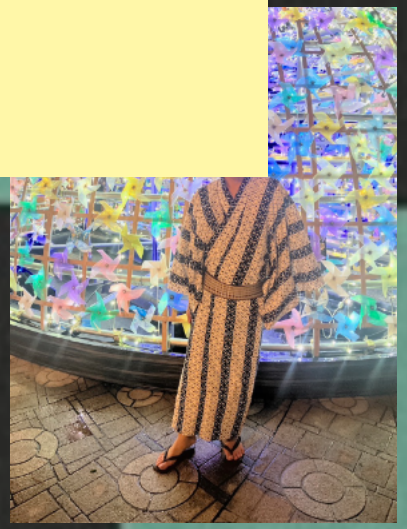
第3回South Dream～未来に向かって　みんなで笑って一年をはじめよう！

「笑う門にはWell-Being」
講師：三遊亭鳳笑　様
我らが南中の卒業生です!!

（本名 伊藤 哲さん）



講師プロフィール
2006年3月五代目円楽一門会　三遊亭鳳楽(ほうらく)に入門 前座修行に入る。
2020年4月真打昇進。
お名前の「鳳笑」はオオトリで笑わせるという意味が込められている。舞台に上がるときのテーマソングの出囃子は童謡の『雨ふり』。

日時：令和８年1月20日（火）５、６校時　場所：南中体育館

講師紹介をします。（スライド１）
本日のSouth Dreamの講師は三遊亭鳳笑(さんゆうていほうしょう) さんです。
五代目円楽一門会（えんらくいちもんかい）に所属されています。

（スライド２）
鳳笑さんは1977年11月23日生まれで、高南小学校、袋井南中学校を卒業されました。立正大学在学中にイギリスへ留学されており、大学生時代は落語のCDをよく聴いていたそうです。今日はそのときのお話も聞けると思います。

（スライド３）2006年に　五代目円楽一門会　三遊亭鳳楽(ほうらく)に入門して、前座から修行をスタートされました。
2010年に　「二つ目」という階級に昇進（しょうしん）されました。二つ目というのは、前座の次の階級で　修行を終え、自分で仕事をとることを許されたり、着物の上に羽織（はおり）を着ることを許されたりします。他にも、高座（こうざ）に上がる時にかける音楽の出囃子(でばやし)も許されます。鳳笑さんは三味線で童謡(どうよう)の『雨ふり』をテーマソングの出囃子（でばやし）にされています。

（スライド４）2020年に真打（しんうち）に昇進されました。真打は落語家の一番上の階級です。弟子をとることを許され、店で言えば暖簾分け(のれんわけ)をしてもらい自分の店を構える事が許されるような意味をもちます。そして寄席(よせ)の最後の演目であるトリをとることが許されます。

（スライド５）
鳳笑さんの芸名「鳳笑」とはオオトリで笑わせるという意味が込められています。
今日は　私たちのために東京からお越しくださいました。本日はよろしくお願います。
これで講師紹介を終わります。

スライド①②
落語とは、一人で複数の登場人物を演じ分けながら語る、日本の伝統芸能です。道具は「扇子」と「手ぬぐい」だけを使います。最後は、オチで話を締めくくります。

スライド③④
落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山（あずちももやま）時代と言われています。戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情（せじょう）を伝えたりする「御伽衆（おとぎしゅう）」と呼ばれる人たちがいました。その中の一人、安楽庵策伝（あんらくあんさくでん）という浄土宗（じょうどそう）の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽（こっけい）なオチのつく「噺（はなし）」を披露してたいへん喜ばれました。江戸時代に入ると有料で噺（はなし）を聞かせる人物が登場し、大阪では「米沢彦八（よねざわひこはち）」、京都では「露の五郎兵衛（つゆのごろうべい）」、江戸では「鹿野武左衛門（しかのぶざえもん）」などが活躍しました。こうして、「寄席（よせ）」が誕生したのです。

スライド⑤⑥
落語で、有名な演目というと、寿限無々（じゅげむじゅげむ）やまんじゅう怖いなどがあります。知っているという人も多いと思います。

スライド⑦⑧
落語の楽しみ方としては、演者の声・動きの違いを注意して見ると面白いです。同じ演目でも演↑者によって解釈が違います。見ながら、「想像して楽しむ」といいと思います。目の前に舞台が無くても、頭の中に情景が広がるのが落語の魅力ではないでしょうか。

スライド⑨
これで、「落語とは？」のプレゼンテーションを終わります。　読む人（水野）ライター（梅谷）

鳳笑さんに聞いてみたいこと

①鳳笑さんは子供の頃どんなお子さんでしたか？
　どんなことが好きでしたか？
②落語の道に進もうと思ったときに、不安なことや心配なことはありませんでしたか？
③「いつもどのような気持ちで仕事をしたり、人前に立って取り組んでいますか？」
④人生の中で、特に参考になった本、おすすめの本はありますか？
⑤「ぼくの夢は、プロのサッカー選手です。そのためにサッカーの練習を本気でがんばっています。鳳笑さんは、夢を叶えるためには何が一番必要だと思いますか？」希
⑥正直言って、自信をもって自分に夢があるとは言えません。何から始めていけばいいと思いますか？